

平成26年度第3回印西市通学区域審議会 会議録

- 1 開催日時 平成27年1月21日(水) 午後2時から
- 2 開催場所 印西市役所41会議室
- 3 出席者 吉田清委員, 小島洋子委員, 齊藤秀樹委員, 堤直美委員,
菅賀美代子委員, 川嶋知道委員, 穴澤義典委員, 秦友樹委員
- 4 欠席者 加藤多恵委員
- 5 事務局 井上学務課長, 池亀主幹, 寺島指導主事, 加藤指導主事, 海老原主査
- 6 傍聴者 なし
- 7 議事録 (要点筆記)

会長 本日は第3回ということで, 前回現地調査した内容とこれまで審議した内容を含めて, 話を進めていきたい。
それでは, 草深石動台・地国台地区について意見をお願いしたい。

委員 本地区は児童がどの程度発生するのか。

事務局 本地区は市街化調整区域であり, 開発の計画がはっきりしていないため, 児童の発生数については明確に答えられない。

会長 前回もあったように, 本地区は滝野地区に隣接しており, 距離的なことを考慮すると, 牧の原小に行くよりは滝野小の方がよいと思われるがいかがか。

委員 本地区は牧の原6丁目に囲まれている。6丁目と同様に牧の原小の学区とする方がよいのではないか。

委員 市街化調整区域にマンションを建てることは可能か。マンションが建つと, 急激に児童数が増加し, 学校のキャパが問題となる。

事務局 基本的に市街化調整区域に共同住宅等は建設できないものと認識している。

委員 急激な人口増にならないのであれば, 距離的に近く, キャパの問題もない滝野小が良い。

委員 地名や地域性を考慮すると牧の原小か原小となるが, 通学区域としては滝野小が良い。距離は500mで, 牧の原小や原小よりかなり近い。また, 通学路の安全

性も確保されている。

- 事務局 昨年度の通学区域審議会で、牧の原地区の中学校を滝野中と決めた。教育委員会としては、旧市村の境で学区を分けるという考えはない。
- 委員 本地区と牧の原 6 丁目は同一地区としてとらえ、同じ学校に通った方が良い。牧の原 6 丁目は牧の原小なので、本地区も牧の原小が良い。
- 委員 今後入居する牧の原 6 丁目の住民は、近くに滝野小があるのに、小学校は牧の原小と言われて喜ぶのか。牧の原 6 丁目も含め、本地区は、近くて、安全で、便利な滝野小とした方が良い。
- 会長 牧の原 6 丁目は諮問にはないので、本審議会で審議はできない。したがって、牧の原 6 丁目に合わせ本地区も牧の原小とするか、本地区を滝野小の学区と定め、後日改めて牧の原 6 丁目の学区を審議してもらうか、どちらかである。
- 委員 本地区だけを考えるならば滝野小の方が良いが、牧の原 6 丁目の児童は本地区を通過して牧の原小に通学することになる。
- 会長 仮に牧の原 6 丁目の学区が決まっていなかった場合、本地区は滝野小の学区として考えた方が良いか、それとも牧の原の方が良いか。
- 委員 距離的に近い滝野小が良い。
- 会長 保護者の立場ではどうか。
- 委員 本地区だけを考えるならば、距離的に近い滝野小が良いと考えるのではないか。
- 会長 将来的に牧の原 6 丁目の学区変更も視野に入れて、本地区は滝野小の学区とする方向でどうか。
- 委員 「地域の学校」という観点から、居住地近くの学校に通学できることは、子供にとっても保護者にとっても大事だと考える。また、小林地区からNT方面への道路が開通し、交通量が倍増した。滝野小へはその道路を横断せずに通学できるので、安全面も確保できる。受け入れるキャパがあるのならば、滝野小の方が良い。

会 長 本地区については、隣接する滝野小の学区とする方向としたい。併せて、将来牧の原 6 丁目も同一学区として再度審議してもらおう。

次に、草深二本松・三夜後・十町歩地区について、意見をお願いしたい。

委 員 国道 464 号線の横断がネックであり、保護者は心配している。通学路の安全性を考えると、牧の原小の方が良い。しかし、現在子どもを西の原小に通わせている保護者は、卒業まで西の原小の方が良いと考えている。

会 長 本地区の保護者は、新設の牧の原小に子どもを通わせる考えはないか。

委 員 既に西の原小に通学しているので、西の原小と考えている。しかし、安全面を考えると、将来的には牧の原小の方が良いと言っている。

委 員 鉄道路線で学区を分けるのは良いと思うが、保護者や地域住民のことを考えると、簡単にはいかないのではないかと。実際に西の原小の方が近いし、中学校が滝野中となると余計に遠くなる。児童数はそれほど多くはないので、選択学区でも良いのではないかと。

委 員 牧の原小の卒業生は全員滝野中に通うことになるのか。

事務局 牧の原小は滝野中の学区に含まれている。

委 員 本地区の子ども達は、西の原中を見ながら、滝野中に通うようになる。

委 員 国道 464 号は交通量が多く、小学生が横断するには危険な場所である。

委 員 土日に部活動に行く中学生にとっても危険な場所である。

委 員 観光バスルートが新設される予定があり、国道 464 号はさらに交通量が増えるものと思われる。

委 員 二本松・三夜後・十町歩の子ども達は一緒に通学している。中学校も西の原中で、一緒の方が良い。

委 員 小倉台小も同じような学区を持っている。しかし、国道 464 号は立体交差で、信号を見て直接横断することはない。

- 委員 通学距離は、牧の原小よりも西の原小の方が 400m から 1 km 程度近い。国道 464 号の横断は安全対策や体制を整えることが可能なので、西の原小の方が良い。
- 事務局 西の原小は通学距離の短さというメリットがある。一方、牧の原小は通学路の安全性が確保されているというメリットがある。
- 委員 中学校は滝野中の方が遠いため、西の原中に行きたいという生徒や保護者が多くなるのではないかな。
- 会長 現在通学している児童生徒を主体に考えると、委員が述べていることも有り得る。しかし、通学区域審議会は将来も見越して審議する場であるので、その点も含めて意見をいただきたい。本地区から西の原小へ何人の児童が通学しているか。
- 事務局 15 名くらいである。
- 委員 将来的にも 15 名くらいである。
- 事務局 15 名には社会増は含んでいない。
- 委員 現在通学している子ども達は、委員会と個別に相談する。学区については線路で分けた方が良い。本地区は牧の原小の学区とし、464 号は渡らないようにする。
- 委員 本地区は草深小の統合に伴い西の原小の学区となった。今回の審議会で牧の原小の学区となった場合、学区の変更をすんなりと受け入れることのできない保護者や地域住民がいるかもしれない。
- 委員 西の原中に行きたい場合、教育委員会で相談には乗ってもらえるのか。
- 事務局 学区外就学の基準に「自宅からより近い学校に通うことができる」というものがある。本地区は西の原中の方が近いので、相談に乗れる。
- 会長 国道 464 号を渡らせるか、渡らせないかが大きな課題である。
- 委員 開発が進み児童が増えた時、「何故交通量の多い国道を渡らせるのか」とならないか。国道の北側に小学校ができたのだから、北側の地区は牧の原小に行ける

ようにした方が良い。

委員 通学や部活動で自転車を使用する中学生に関しても、国道 464 号を横断させるのは心配である。道路は直線でスピードが出るところなので、大きな事故が起きる可能性もある。距離は多少遠いが安全面を最優先に考え、国道は渡らせない方が良い。

委員 道路交通法の改正に伴い、自転車は原則車道を走ることになった。この点からも通学路は交通量の多い道路を避けた方が良い。

会長 通学路としての安全性の確保という観点から、国道 464 号を横断しなくてもよい牧の原小を本地区の学区としたい。なお、現在通学している子ども達については、学区外就学の弾力的な運用をする方向としたい。
次に、県道千葉NT南環状線の南側の草深地区について、事務局から補足の説明をお願いしたい。

事務局 原①の自治会を2つに分け、原小及び西の原小に近い地区をその学区としたい。分け方は、市道 00-026 号線から水路に沿って南下し、墓地と教会の間の未舗装の道路を田圃まで一直線に進む。途中で道路は切れているが、これを境界線としたい。なお、通学路の安全性はどちらも同じ状況である。

会長 事務局案で学区を分けると、西の原小を見て原小に通学する問題は解消できる。また、墓地から田圃への境界は、付近に民家がなく、隣近所で別の学校に通う問題も起こらない。

委員 学区の適正化が図られ、しかも原小の児童数増加を抑えることができるため、事務局案に賛成である。課題は、水路や道路で分けた場合、二分される地域や部落がないかどうかである。

会長 水路は昔から地域を分ける目印になっている。水路で分けるのは理に適っている。全体を二分することに異論はないか。

委員 この前の説明では、仲の側自治会は分けないということだったが。

事務局 原①以外の自治会は分けない。原①自治会の中に「班」のような組織はあるのか。

委 員 班が 15 位ある。

事務局 2 つに分かれている班はあるか。

委 員 私が住んでいるところの班は、事務局案だと 2 つに分かれている。

会 長 班が 2 つに分かれて何か支障はあるか。

委 員 原①自治会の班の状況を確認し、学区編成に反映させた方が良い。

会 長 大きな道路や川、水路で分けるのは合理的な考え方である。班を意識し過ぎると、却ってややこしくなる。

委 員 班を再編成するのはそれほど難しい作業ではない。地域の行事で何か問題は出ないか。

委 員 地域の行事で問題になるものは、少ないのではないかとと思われる。

会 長 本地区は、事務局案で二分する方向で考えたい。

委 員 地域住民には、草深小統合時に相当苦勞した人がある。地域住民の感情を理解し、情報提供等も含め、丁寧に対応してもらいたい。

会 長 以上で本日の議事を終了する。

事務局 何点か連絡をさせていただく。

- ・第 4 回審議会を 2 月 18 日に行う。欠席の場合は前日までに連絡をお願いしたい。

- ・今回の報酬は口座に振り込ませていただく。

- ・議事録署名人について、第 1 回は吉田委員と小島委員、第 2 回は齊藤委員と堤委員をお願いしたい。

以上で、本日の審議会を終了する。

平成26年度第3回印西市通学区域審議会会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成27年2月18日

通学区域審議会委員

通学区域審議会委員